

種子果実標本の展示手法に関する研究



自然環境再生研究部 生物資源研究グループ

藤井 俊夫

展示標本の規格化

種子果実標本は小さく見栄えがしないものが多いため、魅力ある展示を行うには工夫が必要である。種子果実を用いた簡便で、魅力ある展示手法の開発に関する研究を行った。まず、種子を展示する際に用いる容器の規格化を検討した。安価で容器が透明な乾熱滅菌シャーレが適していることがわかった。シャーレに入れた種子標本を多数作っておけば、様々なテーマの展示にも標本の選択、並び替えで対応できる。

展示場所に応じた標本の準備

シャーレは無色透明なので、背景を工夫する必要がある。シャーレに封入する標本の色彩や照明に応じて、底面の色を変更することが可能になる。また、直立した壁などに展示する場合、シャーレに標本を固定する必要があるが、標本を木工用ボンドでシャーレに接着すれば、解決する。昆虫標本を収めるドイツ箱にシャーレを配置すれば、長期間の保存も可能となる。



ネーブルのスライス標本
(背景は白色)



ネーブルのスライス標本
(背景は黒)色



ネーブルのスライス標本
(背景は茶色)



ヤマラッキョウ
(背景は白色)